

腹腔鏡技術認定医の取得を目指す先生へ(2025年1月22日更新)

当院は日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設です。

専門医を取得し、日本産科婦人科内視鏡学会に所属している先生が資格取得し執刀できるような2年間のプログラムを提供します。

腹腔鏡下手術の技術向上には以下の3つをバランス良く且つ豊富にこなしていくことが必要です。

- ① ドライボックスを用いた練習：自分の手の延長と操作できるように日々の努力が準用です。個人専用のボックスとカメラと鉗子を揃え1日に何度も課題を決め修練します。
- ② 質の高い腹腔鏡下手術の見学：手術は実際に手を動かす以上に目を肥やすことが大切です。解剖の理解、剥離法や止血法の選択、組織の軟硬薄厚を見極め予想できるよう視野と視覚のトレーニングを行います。
- ③ 豊富な執刀と助手の経験：年間200-250件の症例に入ります。一つとして同じ症例はありません。Trial and errorを繰り返し実践突破力を養います。

これらについて各々説明していきます。

- ① ドライボックスを用いた練習：入職したら速やかに個人所有のトレーニングボックス、鉗子、ビデオカメラ、モニターを準備してもらいます。朝夕最低20分のトレーニングを日課とします。内容は上達に応じて上級医から指導します。
- ② expertの手術を学ぶ機会を実際の現場や動画で提供します。定型化された術式を身につけ、鉗子やdeviceの選択や手の動き、音などを見極める感性を涵養しましょう。
- ③ 研修開始後、間も無く助手を務め次第に執刀を開始します。手術の緊張感、リズム、触感、ドライボックスとの違いを体感し術者としての自立を促します。技術認定医水準を十分に超える上級腹腔鏡下術者の育成を目指し年間250症例以上の手術に入ってもらいます。

当院では以下の定型化した腹腔鏡下腔式子宮全摘術に準拠してトレーニングを行います。

Step 1 子宮動脈と尿管の同定

Step 2 上部靭帯の切離

Step 3 傍子宮組織の処理

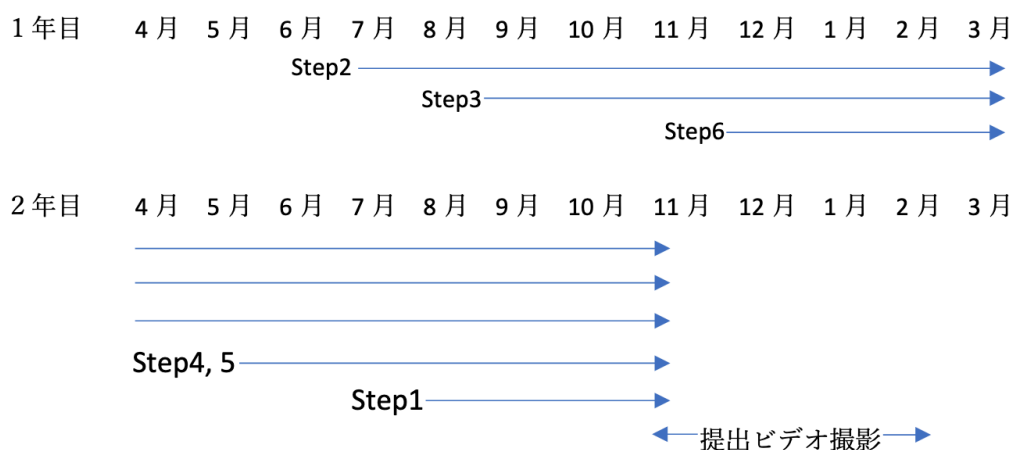
Step 4 膣管切開

Step 5 子宮の腔式回収

Step 6 膣断端と後腹膜の縫合

時期と経験症例と個人の skill に応じて多少の前後はありますが徐々に執刀医としての task を増やしていきます。

(例) 4 月入職の場合



技術認定医取得はあくまでも通過点です。「自分には腹腔鏡の技術がある！」という確信を持つことでその後の医師としての歩み自信と余裕と更なる高みへの意欲が生まれます。世界に通用する expert を目指すような高い意識で修練する先生の応募をお待ちしています。